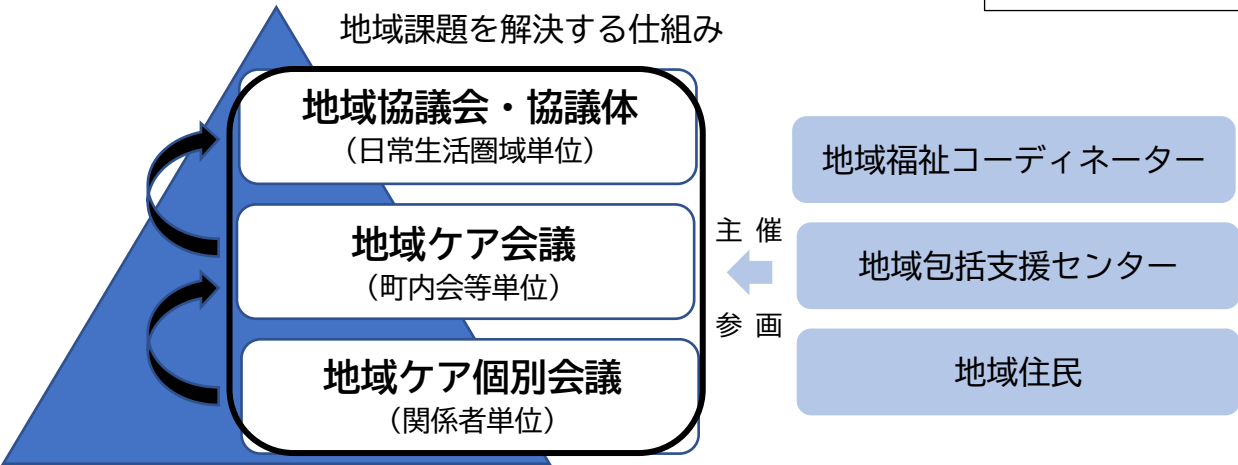
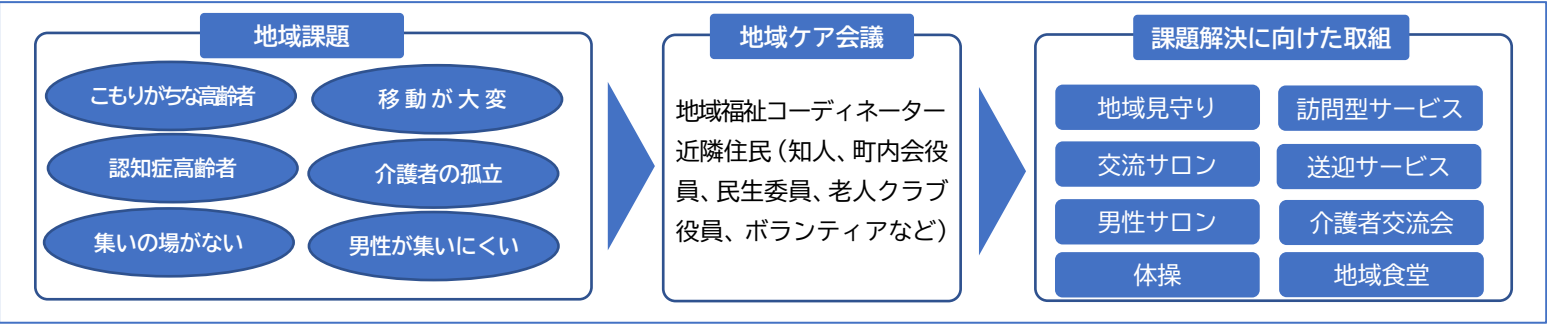


地域の生活課題を解決する仕組みづくり



地区	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	備考
松原中学校区	コミュニティカフェ 交流サロン 体操サロン 地域見守り 地域見守り（移動スーパーと連携）		健康麻雀 健康麻雀 健康麻雀+体操 ベンチ設置運動 ウォーキングクラブ 地域見守り	・ コロナ禍で地域活動が停滞していた。 ・ コロナ禍でも安全に行える健康作りと交流の場のために地域の財産である緑道を活かした屋外活動としてウォーキングクラブを発足した。発足に至るまで「緑道には休憩場所がない」等の理由で参加を断るケースが多く見られたため、緑道にベンチを設置した。 ・ 取り組みを通じて、地域住民のつながりが増え、健康に対する意識も高まっていることを実感している。
中部中学校区	交流サロン 体操サロン ちょっと話し隊 見守りプロジェクト ひとり歩き訓練(グループホームと地域との繋がり)	地域見守り（おれんじプラスカフェと連携）		・ ひとり暮らしに不安を抱える住民を支援するため、見守り活動に関するチラシ等を作成し、見守りの啓発を行うとともに、活動意識の向上のため、お揃いのベストを購入した。 ・ 令和 2 年度以降、コロナでつながりを絶やさないように、活動の分散開催を開始したことで、コロナ禍でもできる限りの活動を継続できた。 ・ 令和 3 年度より各団体が情報共有できる場を設け、地域との繋がりを継続している。 ・ 情報の共有により、生活に困っている方の買い物支援を実施する活動が生まれるなど新たな活動の創設にも繋がっている。
高森台・石尾台中学校区	地域の居場所づくり 既存集会場の活用 助け合い活動 孤食予防		介護予防・交流の場づくり 見守り活動（見守りステッカー） 介護予防体操教室	・ 以前から誰もが気軽に通うことのできる居場所がなく、地域の助け合いの仕組みが構築できていなかった。 ・ 見守り活動等を開始し、早期段階から包括に関わることで、サロン参加者の変化について団体から地域包括への連絡が増えた。 ・ 会場運営等を手伝う支援員はいるものの、団体を運営する代表者の跡継ぎ・運営の担い手の不足が課題として残っている。

地区	令和２年度	令和３年度	令和４年度	備考
東部中学校区	見守り活動	フレイル予防 見守りネットワークづくり	いきいき食堂 運動サロン カフェサロン	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより、地域と関わる機会が減少し、高齢者の健康や安否が確認できないことが課題として挙がっていた。 ・地域の協力員が高齢者の自宅へ訪問し、健康チェックシートを基に心身状態の管理や見守り活動を推進した。 ・令和４年度には、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の孤食を防止するために、いきいき食堂を開催し、食事を通した、交流機会の確保も行い、特に男性の活躍が目立った。 ・コロナ禍でも交流の必要性を強く感じ、感染症予防に配慮しながら、小さな集まりや活動を実施し、交流機会の増加が見られている。
高蔵寺中学校区	助け合い活動（交流促進）	助け合い活動（困りごとの解決）	訪問型お助けサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間や近隣との交流機会がなく、地域コミュニティの希薄化が懸念されていた。 ・訪問型サービスについては、助け合いの仕組みであり、会員相互であることが徐々に浸透されて、利用頻度も増えている。 ・活動は支援する人にとってのやりがいや活躍の場に繋がっている。
柏原中学校区	高齢者の生きがいづくり活動	グラウンド・ゴルフ 交流サロン	ラジオ体操 健康マイレージチャレンジ コーヒーサロン	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の手芸作品等を喫茶店で販売し、売り上げを小学校等へ寄付する仕組みを構築し、閉じこもりがちな高齢者も地域とつながりを持ち、やりがいを感じながら趣味活動が続けられるようになった。 ・老人クラブの会員数減少の課題に対し、誰でも参加できるラジオ体操等の新たな活動を開始し、会員数を増やすとともに、地域のつながりを増やした取組となった。
南城中学校区	ラジオ体操	ラジオ体操	ラジオ体操	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの解散やコロナによるサロンの活動中止により、高齢者の交流機会の減少や運動機能の低下が懸念されていた。 ・ラジオ体操を近所の子どもたちも参加しやすい日曜日に開催し、高齢者と子ども、その家族も一緒にラジオ体操を行うことで、多世代交流する機会が増えた。 ・今後はラジオ体操後の参加者の交流の場を展開していく必要がある。
西部中学校区	ひとり歩き高齢者への声かけ訓練	多世代交流活動		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子どもの交流機会の減少から、駄菓子屋を拠点に子ども達と手紙を通した交流を進めている。 ・サロン参加者が手紙の返答を行っており、どんな子どもがどんな想いで手紙を書いたか想像し、どのような返答がふさわしいか参加者同士で考えることで、高齢者一人一人のやりがいにもつながっている。 ・ひとり歩きをしている高齢者を見かけた場合の対応方法を学ぶため、認知症高齢者等の正しい知識を学ぶことができる講座を開催するとともに、声かけ方法や対応方法の学ぶため、「ひとり歩き高齢者声かけ模擬訓練」を実施した。

地区	令和２年度	令和３年度	令和４年度	備考
藤山台・岩成台中学校区		運動サロン	フードパントリー フードパントリー 運動サロン 運動サロン 体力測定会 ちいき食堂 認知症家族介護者のための交流	・運動をしたいと思っている住民が気軽に運動できる場を作るために運動サロンを実施し、継続的な運動や地域の困りごとの共有を進めている。 ・十分な食事をとることができない住民のために、地域で食品の配布を行うフードパントリー事業を実施する他、パントリーで持ち帰った食材を調理できない方や一人で食事をしている方のために、地域食堂を開催した。 ・地域の方との顔合わせや地域の状況が把握できるため有効な活動となっている。
味美・知多中学校区		ラジオ体操	見守り活動 カフェサロン SNSの普及活動 ラジオ体操	・コロナによる交流機会の減少から、令和２年度以降、公園でのラジオ体操やカフェ等で顔を合わせる機会を作った。 ・認知症高齢者が地域で安心して暮らせるように、認知症の方の対応方法が記載されたバイブルを作成し、店舗や地域の担い手に配布を行った。 ・見守り活動の協力者間で、地域の情報共有を行う目的でライングループを作成し、地域力の向上に向けて取り組んでいる。 ・SNS部では、匿名の投稿で交流ができるため、活発に地域の情報交換ができています。 ・多くの活動を通して、地域のつながりが強化され、あらゆる情報の共有が進んでいる。
坂下中学校区		見守り活動	見守り活動+交流会 訪問型サービス	・令和３年度以降、コロナの影響により活動参加者の減少が課題にあった。 ・交流会はブロックごとに開催され参加を楽しみにされるなど交流機会が増えた。 ・訪問型サービスにより「8050」世帯で親世代（高齢者）の支援が無くなっても、気にかけて見ている住民が増え、地域住民の助け合いの意識に変化が見られている。
鷹来中学校区		見守り活動（あんしんみまもり登録）	交流サロン	・コロナにより、住民同士の交流機会が減少し、地域のつながりが希薄化している。 ・以前から多くの高齢者の集いの場として活躍していた喫茶店と協力し、登録した住民に異常があった場合、地域包括支援センターへ繋ぐ仕組みを構築した。 ・住民が歩いて来れる集会所でサロンを開催し、住民同士の顔を合わせる機会が増加した。